

2025年度の主な事業

- 5 May** 江原河畔劇場へ行こう！プロジェクト えんげきワークショップ
赤ちゃん連れや車椅子の方、障害のある方も一緒に楽しめるワークショップを開催。多様な輪が広がり、また多世代の交流も生まれました。
- 7 July** 江原河畔劇場プロデュース 『タジタジ道中膝栗毛』
田上豊の江原河畔劇場芸術監督就任を記念して、自身の演出作品である一人芝居（主演 村井まどか（青年団））を再演。ちょっと変わったバスガイドが“タジマ”の名所を案内する観光バスツアー型演劇。
- 8 Aug** 江原河畔劇場へ行こう！プロジェクト 河畔の時間vol.4 キッズシアターday
「劇場をもっと身近に。もっと気軽に。河畔の時間を一緒に。」をコンセプトに『ちっちゃい姫とハカルン博士』『ちっちゃい姫とシャベルン博士』－夏休み2本立て公演－を実施し好評を博しました。
- 9 Sep** 豊岡演劇祭2025
今年度も多彩な演目で盛り上がりを見せた豊岡演劇祭2025。当劇場では、サンゴ礁地球環境学の研究者と、劇作家、演出家を中心としたサイエンスとパフォーマンスの共創プロジェクトの公演『海のセレナーデ』と、青年団公演『S高原から』が上演されました。
- 10 Oct** 反芻動物「紙風船」ワーク・イン・プログレス
松崎義邦を中心に2025年に発足した、えばラボ アソシエイトカンパニー「反芻動物」。100年前に書かれたの岸田國士の短編戯曲に挑みました。
- 11 Nov** ひょっこりシアター2025 『ひょっこり大冒険』
障害も年齢も背景も異なるメンバーが作り上げた演劇。その日限りの奇跡的な瞬間に、会場は大きな感動に包まれました。
- 時々『劇場と喫茶店.1』
えばラボ アソシエイトカンパニー「時々」による劇場の可能性を探る新たな打ち出し。劇場内に突如カフェが設置されました。
- 反芻動物『命を弄ぶ男ふたり』ワーク・イン・プログレス
岸田國士による「自由」を前に命を思考する男ふたりの物語。作家が向けた社会への眼差しを“反芻”し現代の眼差しの変容を試みました。
- 12 Dec** 青年団
子ども参加型演劇『サンタクロース会議』『サンタクロース会議 アダルト編』
毎年大好評の子ども参加型演劇に加え、今年度は、サンタの存在を信じている子どもは絶対に観てはいけないアダルト編を11年ぶりに再演しました。
- 『演劇人コンクール2025』上演審査
「地域を越え、国際的に活躍できる演出家の発掘と養成」をコンセプトにした演劇人コンクール。個性あふれる上演が繰り返されました。
- 1 Jan** たじま児童劇団第5回公演 『十五少年・少女漂流記』
平田オリザが但馬児童劇団に書き下ろした作品を、第5期シニアクラスメンバー22名が再演。等身大で演じる中高生の姿に感動が生まれました。
- 2 Feb** たじま児童劇団第5期 ジュニアクラス発表会
今期17名の子どもたち自身が、テーマも作り方もゼロから話し合い自由に考え創作した作品を、初の有料公演として上演しました。
- 3 Mar** 江原河畔劇場へ行こう！プロジェクト 平田オリザ講演会（3/7（日）開催予定）
時々『劇場と喫茶店.2』（3/25（水）～3/29（日）上演予定）



江原河畔劇場 通信 特大号

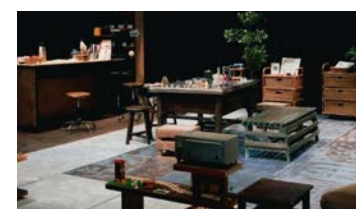
2026年2月 発行

2020年の劇場オープンから5周年を迎えた今年度も、地域の皆様に支えられながら、様々な事業を無事に実施することができました。改めまして御礼申し上げます。
第5期目となりこれまで蓄積が見事な成果として表れた「たじま児童劇団」の公演、劇場の更なる可能性をじっくり探る場として開設した「江原河畔劇場ラボラトリー（えばラボ）」や「えんげきワークショップ」などの新たな取り組み、11年ぶりの再演で話題を呼んだ「サンタクロース会議 アダルト編」など、一つひとつの活動に丁寧に向き合っていました。劇場で生まれた感動と舞台裏の様子をまとめました。是非ご覧ください。

初夏、劇場からの眺め



江原河畔劇場ロビーからは四季折々の円山川の景色が臨めます。夏は、日差しを浴びて若葉が瑞々しく、そして力強く茂っていく様子がダイレクトに感じられます。
今年度、当劇場として初めて開設した「江原河畔劇場ラボラトリー（えばラボ）」においても、アソシエイトカンパニー（「時々」「反芻動物」）が試行錯誤しながら創作に取り組むなかで生まれた、瑞々しい風が劇場に吹き込まれました。



劇場内に喫茶店が！「時々」の『劇場と喫茶店.1』舞台セット



江原河畔劇場→東京公演「反芻動物」による『紙風船』舞台写真



『紙風船』ワークインプログレスを終えて交流するアソシエイトカンパニー「時々」「反芻動物」メンバーのみなさん

5年目にしてこれまでの積み重ねの成果が感じられた今期たじま児童劇団の様子をご紹介します。

たじま児童劇団 第5期 2025年度のあゆみ



たじま児童劇団 シニアクラス第5期
『十五少年・少女漂流記』
作・演出:平田オリザ
2026年1月10日(土)~12日(祝)

たじま児童劇団は、地域と劇場をつなぐ事業の一つです。シニアクラスの活動は7月から月1~2回ほど実施し演劇の基礎を学びます。今年22名の中高生が参加してくれました。冬休みから1月の本番までは年末年始を除いて毎日稽古が続きました。セリフ覚えに苦戦しながらも作・演出を務める平田オリザの指導に応え、自身の役と向き合い、表情や動きを工夫し、衣裳や小道具の提案も自ら行いながら稽古を重ねていきました。



様々な演劇訓練を体験



台本を使って立ち稽古開始

本番が近づく頃には冬休みも終わり、放課後に劇場へ通いながら学校生活と両立する姿に、頼もしさを感じました。

そして迎えた本番では、全6公演、どの回も、児童劇団メンバーのご家族や友人、学校の先生、地域の方々、大学生など、多くの方にご来場いただき、客席は温かな空気に包まれました。千秋楽のカーテンコールでは、出演者が3回目をフライングしてしまうほど、やり切った様子を見せていました。幸い流行病などで欠席者が出ることなく、第5期メンバー全員で舞台を終えることができました。今期で最後の参加となるメンバーもあり、これまでの活動をみんなで振り返りながら幕を閉じました。旅立つ仲間を見送りつつ、たじま児童劇団はこれからも挑戦を続けていきます。



本番で堂々と演じるメンバー



舞台上もチームワーク抜群



終演後、最後の全員集合
撮影:igaki photo studio



チラシ掲載のイラストはOBの田上聖さん画

たじま児童劇団 ジュニアクラス第5期
『発表会』
作:ジュニアクラスのメンバー
2026年2月15日(日)

今年度も活動開始から実に数十本ものオリジナル小作品を創作し発表を重ねてきた、今期17名のジュニアクラスの軌跡を振り返ります。6月に今年初のメンバーも迎え活動開始。名前を呼び合うゲームで盛り上がり、早速チームでの創作を行い仲間との交流を深めました。夏は猛暑の中、毎回の活動を楽しみに劇場に通ったメンバー達。ウォーミングアップはなぜかウインクキラーが定番になりました。劇場全体を使ったかくれんぼをして「場所」を探求した創作劇や「やりたい役」から想起した短い劇を作成し発表を重ねていきました。また豊岡演劇祭に向けた特別プログラムとして、演劇祭で実際に上演される作品の『タイトル』から勝手に想起して物語をつくり、メンバー達の持つ創造的な発想を炸裂させていきました。

秋から冬にかけては、色んな創作方法に挑戦しました。「転校生がやってきた」というテーマで、ユニークな設定の物語を創作。また、2,3人の小さなチームに分かれ、それぞれが劇作と演出をローテーションで挑戦し、2時間でなんと11本もの劇を発表しました。また、大人の俳優が「一番輝く」物語をこども達が作演出したり、設定やセリフを駆使する「俳優を椅子から立たせる」プログラム、現実のエピソードから劇を立ち上げる作り方など、メキメキと創作力を育み、更に演劇を楽しむ姿が見られました。年明けからは、2月の発表会を見据えた活動が始まり、手応えのある作品が生まれ、大人も驚くほど順調に稽古が進みました。



終演後、達成感に満ちた表情のジュニアクラスメンバーとスタッフ

そして発表会本番、これまでの経験とメンバー達の個性が発揮され、客席は笑いと感動に包まれました。お互いを認め自然と支え合い切磋琢磨できる彼らは江原河畔劇場の誇りです。

2025年度新たに試みた自主事業と、レジデントカンパニー「青年団」公演の様子をご紹介します！

江原河畔劇場へ行こう！プロジェクト えんげきワークショップ



5月17日、幅広い世代が集う「えんげきワークショップ」を開催しました。当日は1歳から50代まで総勢28名が参加。まずは名前を呼び合うゲームや、言葉を使わずジェスチャーのみで誕生日順に並ぶワークを通し、初対面同士の壁を溶かしていきました。続くチーム対抗のジェスチャーゲームでは、手渡されたお題をどう伝えるか試行錯誤の連続。その後のジェスチャー創作劇では二度の発表タイムを設け、ミッションを加えながら更に作品を磨き

上げる過程で、スタジオには真剣さと笑い声が溢れました。最初は保護者のそばを離れなかった子どもたちも、後半にはすっかりチームの一員。大学生や大人たちと肩を並べて演劇の世界に没頭する姿が印象的でした。「演劇は何歳からでも、誰とでも楽しめる」。参加者の皆さんの生き生きとした表情は、そんな演劇の可能性を物語っていました。共に創り上げる喜びを分かち合った実りある一日となりました。参加いただいた皆様ありがとうございました！



みんなでジャンケンゲーム



チーム対抗ジェスチャーゲーム



ジェスチャー創作劇を発表



劇場で多様な交流が生まれました

青年団第103回公演

『サンタクロース会議』



撮影:igaki photo studio

これまで豊岡市内の小学2年生を対象に芸術鑑賞会として実施してきた子ども参加型演劇『サンタクロース会議』を、今年度はどなたでもご覧いただける一般公演として上演しました。併せて、劇団青年団としては約11年ぶりに『サンタクロース会議 アダルト編』を再演し、二本立て公演として実施しました。10月からオンラインで稽古し、12月以降はキャスト全員が江原に合流し、自主稽古を開始。12月9日から、作・演出の平田オリザによる本格稽古が始まり、子どもたちから寄せられる質問や意見のやりとりを想定した稽古や話し合いを重ね作品の精度をさらに高めていきました。

『サンタクロース会議 アダルト編』は、「サンタを信じている子どもは観てはいけない」という少しブラックな設定の作品。現代社会の世情に合わせて一部台詞を変更し、より風刺的な内容に仕上がりました。

12月12日、アダルト編から本番が始まり、大人ならではの視点でブラックな笑いを楽しんでもいただきました。翌日、初日を迎えた子ども参加型公演では、客席の子ども達とのリアルなやりとりが生まれ、会場が一体となりました。子どもも大人も、それぞれ作品を楽しんでもいただきました。ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。



撮影:igaki photo studio